

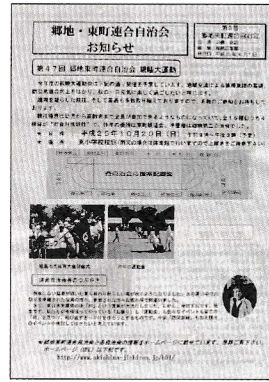
郷地東町連合自治会広報誌
「かわらばん」発行10周年に想う
郷地東町連合自治会事務局長 中島岩雄

本来の『かわら版』の発祥は江戸時代中～後期で、当時多くの方が集まっていた江戸、大阪、京都など都市部で発行されていたようです。



当時、かわら版売りは楽器を使ったり、内容を面白可笑しく節をつけて読みながら販売したそうで、料金は今の金額で1部80～320円。紙面の大きさや内容で差がありました。その内容と言えば、ゴシップ、仇討ち、災害（火事や水害）、歌舞伎の演目チラシなどで、民衆の興味を引き付け、ニュース性とスピード感に優れていました。今日のTV放送のモーニングショーやワイドショーに似ています。

方や、私たちの『かわらばん』は平成24（2012）年にうぶ声を上げました。その頃すでに連合自治会活動は50年以上の歴史を持っていましたが、その活動内容は長年にわたって総会資料で分かるだけのものでした。そのため会員から、「連合自治会は何をしている団体か全く分からない」というお叱りが沢山あったのです。そこで全会員向けの情報伝達手段として会報を発行することになり、『連合自治会会報』と銘打ってスタートしましたが、情報収集にも不慣れでA4版裏表2頁の白黒印刷でしたので、すこぶる評判は悪いものでした。「無駄な骨折り（編集作業や配布作業）だし経費もかかるから、やめた方がいい」との意見もありました。しかし、やめてしまっては前に進めません。それではと、思い切ってカラー化して、高額印刷経費は『東京都地域底力助成金』を活用する方法を考え出し、継続的に年4回の発行が可能となりました。更に編集担当者も充実さ



平成25年10月に、白黒印刷の「連合自治会会報」(左)からカラー印刷の「郷地・東町かわらばん」(右)になりました

せ、編集会議で担当者が意見を出し合い、協議して、掲載内容を検討しながら各自治会の実情活動報告、集会所の所在と設備などの紹介、祭りや運動会の特集、防災意識の啓蒙、老人会や地区委員会の活動紹介、地域の芸術家紹介、地域の歴史や訪れてみたい名所の案内等々、会員の皆様に興味を持って頂ける内容をを取り上げ、なるべく大勢の会員の皆様にも登場して頂くようにして、名前も第3号から『郷地・東町かわらばん』と改めました。その結果、徐々に浸透して見て頂ける方も多くなり、最近は楽しんで頂けていると思います。

お陰様で本紙もこの40号で10歳（年目）を迎えました。ここまで本紙が進歩・発展できたのは、編集や発行に携わって頂いた方々と会員の皆様のご協力によるものです。歴代の総務広報部の役員さんは勿論、編集主務を担当して頂いている昭島団地自治会の清水さんには本当にお世話になっております。紙面を借りて感謝申し上げます。

そして、当『かわらばん』を今後も続けていくには、何と云っても会員皆様のご支持と応援が一番大切です。時代変化に合わせた記事や情報を収集できる人、紙面作りが出来る人等の人材確保も重要です。そのような方がおられましたら、自薦他薦を問いませんので、ぜひお知らせください。よろしく願いいたします！



稲和祭開催
万燈神輿が初お目見え

10月9・10日、地元のお神輿大好きな有志の皆さんが集まった稲和会による『稲和祭』が開催されました。会の結成後、東町のお神輿を借りて体育の日に稲和祭を開催していましたが、コロナでしばし中断され、久々の再開です。しかも今年は、万燈神輿が初お目見えです。9日は夕刻、郷地稲荷に集合した後、神社と大六天を往復し、本体と周りの提灯に灯が入った豪華なお神輿の姿が初披露され、翌日は東町方面を巡行しました。

稲和会では随時会員を募集しています。興味がある方はいつでもお気軽にお問い合わせください。 ☎090-4707-5376 田中弘明



他の神輿会の代表紹介。大勢の皆様にご参加頂きました



↑有志の方には2段に及びました
一夜に真価を発揮する本
体と提灯に灯りが入った
万燈神輿。久々の出動に
担ぎ手の気合も最高潮に